いいねがいっぱい

記紀ゆかりの地

大和平野の低地にあった古代の田原本には、日本最古の歴史書「古事記」と正史「日本書紀」という日本の成り立ちを伝える「記紀」にゆかりのある3つの神社があります。

多神社 本殿

記紀の編纂に携わった太安万侶（おおのやすまろ）を合祀

多神社

「古事記」「日本書紀」の両方の編纂に携わった太安万侶は、古代の豪族・多（おお）氏の族長でした。父は壬申の乱で活躍した多臣品治（おおのおみほむじ）といわれ、田原本町南部の多地区周辺は、この多氏の本拠地であったと考えられています。記紀の記述によると、多神社（多坐弥志理都比古神社（おおにいますみしりつひこじんじゃ））に祀られる神八井耳命（かむやいみみのみこと）は多氏の先祖とされ、多氏との深い関わりが認められます。また、多氏は宮中雅楽を司り、一族には音楽に関係する人が多く、この地は「音楽発祥の地」ともいわれています。

また、この神社は、奈良時代には大神神社に次ぐ経済力を持ち、大和でも有数の勢力を誇っていました。大和盆地の中心にあり、東に三輪山、西に二上山を望む「太陽の道」の線上に鎮座し、春分・秋分の日に山頂からの日の出を拝する特別な位置にあります。

太安萬侶墓誌
（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館提供）

奈良市東部の茶畑で発見された火葬墓から出土した「太安萬侶墓誌」。太安万侶が平城京の左京四条四坊に住み、従四位下勲五等という高い地位で養老7年7月6日に没したことが記されています。

多神社に祀られている木造太安萬侶坐像

古代の工人集団 鏡作部の聖地

鏡作神社

古代の鏡作の工人集団・鏡作部たち（かがみつくり）が住み着いた鏡作郷。鏡作神社（鏡作坐天照御魂神社（にいますあまてらすみたましんじゃ））は、この「鏡制作の聖地」に鎮座しています。祭神は、鏡作部の遠祖・石凝姥命（いしこりどめのみこと）、天照国照彦火明命（あまてるくにてるひこほあかりのみこと）、天糠戸命（あめのぬかどのみこと）の三座。

「古事記」や「日本書紀」では、天照大神と鏡は密接な関係があると示されており、「古語拾遺」には、天照大神が鏡を自分の象徴として皇孫に賜ったと記されています。本神社に祀られる石凝姥命は天照大神の三種の神器のひとつ・八咫の鏡（やたのかがみ）を作ったとされています。神社には神宝として「三神二獣鏡」が今に伝えられています。

今は見ることができませんが、多神社と対になるよう、この地では立冬・立春に三輪山から二上山へと移動する日を拝することができたそうです。

鏡作神社 本殿

鏡作神社 鳥居

神社で初めて位を賜った古社

村屋神社

「日本書紀」には、壬申の乱の際、大海人皇子（後の天武天皇）軍に神のお告げを与え、勝利に導いたと記されている村屋神社（村屋坐弥冨都比売神社（むらやにいますみふつひめじんじゃ））。この功により、神社で初めて位を賜った古社といわれています。

祭神の弥冨都比売命（みふつひめのみこと）は、大物主命の妃であり、大神神社の別宮といわれています。また、縁結びの神としても知られています。

町の木である「イチイガシ」などの社そうは、県の天然記念物に指定されています。

村屋神社 拝殿

村屋神社 本殿

いいねがいっぱい

平野権平長泰

ひらのごんべいながやす

まちの発展の礎となった田原本の領主

2016年NHK大河ドラマ「真田丸」の中で真田信繁（幸村）とともに登場した平野権平長泰。彼こそが「賤ヶ岳の七本槍」と称され、その戦功により、大和国十市郡内に五千石を拝領し、田原本の領主となった人物です。田原本町はその平野氏十代の領地として発展してきました。

賤ヶ岳合戦図屏風（大阪城天守閣 蔵）

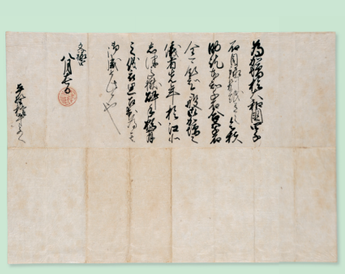
平野権平長泰

賤ヶ岳の七本槍

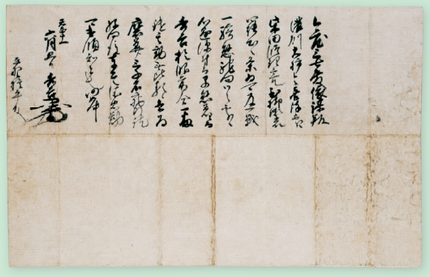
天正7年（1579）、21歳の頃から木下藤吉郎（豊臣秀吉）に仕え、各地を転戦した平野権平長泰は、天正11年（1583）、賤ヶ岳の戦いで柴田勝家の軍を討ち、秀吉の天下取りに大きく貢献しました。このときの功績によって、福島正則、加藤清正らとともに、「賤ヶ岳の七本槍」と称され、三千石の領地が与えられました。

その後、賤ヶ岳の旧功が見直され、文禄4年（1595）に田原本など五千石の領地が与えられました。時に長泰37歳のことでした。この時、豊臣秀吉が長泰に宛てた感状は、町の文化財に指定されています。

長泰が実際に合戦で用いていたとされる槍の穂先（本誓寺蔵）



平野権平宛豊臣秀吉朱印状
（福岡洋介氏所蔵／町指定文化財）



平野権平宛羽柴秀吉判物
（福岡洋介氏所蔵／町指定文化財）

歴史ある町並み

平野家の陣屋町

長泰は京都伏見に屋敷を構え、田原本の地は、教行寺に寺内町を築かせて統治。寛永5年（1628）に70歳の天寿を全うしました。

二代目長勝は田原本に入り、寛永12年（1635）、現在の町役場付近に陣屋（役所）の築造を開始。教行寺との支配権を巡る争いの末、長勝は教行寺を退去させ、その跡地に円城寺（現・浄照寺）と本誓寺を誘致しました。

寺内町は、陣屋を中心とした陣屋町として引き継がれ、寺川の水運と中街道沿いという好立地から物流拠点として発展。商業が大いに栄え、大きな問屋が軒を連ねたことから「大和の大坂」ともいわれていました。

本誓寺 本誓寺は平野氏の菩提所となり、境内には二代長勝、九代長発の霊廟が建てられています。

浄照寺本堂（県指定文化財） 二代目長勝の創建とされ、その表門は伏見城から移築したものと伝えられています。

その後の平野家

平野家は文禄4年（1595）から実に約280年にわたり、国替えにもあわず十代にわたって田原本を統治しました。福島正則や加藤清正らが大名になりながらも大名家として続かなかったのに対し、平野家は旗本ながら明治時代まで安泰だったことは特筆すべきことです。石高は五千石でしたが、江戸時代を通じて旗本交代寄合として参勤交代も務め、大名並みの待遇でした。

そして、明治元年（1868）には一万一石八斗を与えられ待望の大名となり、田原本藩となりました。

明治4年（1871）に廃藩置県で奈良県に編入されましたが、藩主はその後、男爵に叙爵。その後貴族院議員となり、昭和になって華族制度が廃止されるまで続きました。

長泰のものと伝えられる塗膳
（本誓寺蔵）

津島神社 江戸時代に領主平野家の尊崇を集めました。中和最大の夏祭り「祇園祭」が行われます。

長顕寺 領主平野家の武運長久の祈願寺として京都から招かれたと伝えられています。